

2014 January vol. 1

住み慣れた土地で 生き生きとした暮らし

和

DAI2 NARITA
MEMORIAL
HOSPITAL



季刊誌発刊にあたって

院長 樋下田 稔昭



第二成田記念病院は回復期リハビリテーション病棟（以後回復期リハ）専門の病院です。回復期リハとしては東三河地区のみならず全国でも極めてレベルの高い病院と自負しております。

一方、口下手で控えめなスタッフが多く、学会などでも多くを語りません。このリハ日和ではそういうスタッフに日頃の思いをおちまけて戴き、また当院に入院された患者様とご家族様、地域の皆様にお読み戴き、誉め言葉、お叱りの一言、単なる世間話でも、認めて戴ければ幸いです。皆様からの一言をお待ちしております。

回復期リハビリテーションとしての当院の仕組み

脳血管疾患や下肢の骨折等の疾患で、急性期の治療が終了した患者様に対して、できるだけ早期から集中的なリハビリテーションを行い、日常生活に必要な動作能力を獲得していただくことを目的としています。当院では、理学療法士（PT）34名、作業療法士（OT）18名、言語聴覚療法士14名がいます。

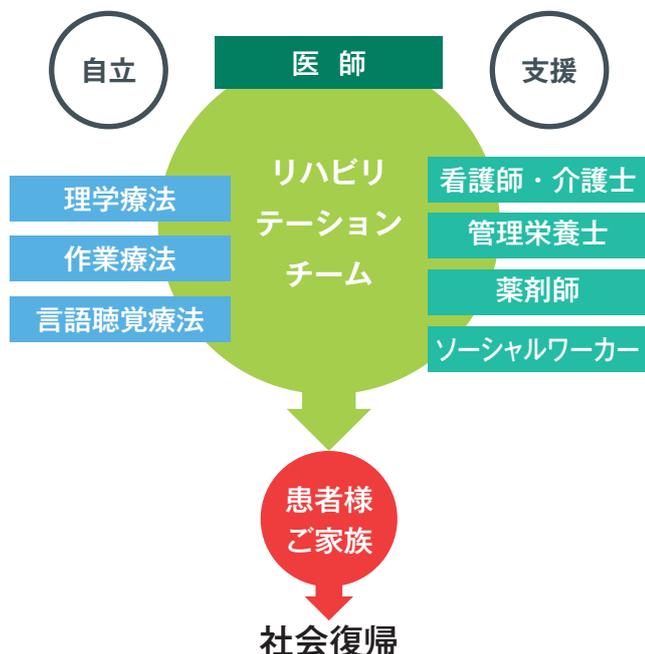
患者様ごとに適切なリハビリテーション医療を提供するために、療法士と患者様がマンツーマンで対応する「個別訓練」を基本としています。

ミーティングによって情報を共有し チームで援助します。

一日も早い家庭や社会への復帰をめざして、機能訓練室でのリハビリだけでなく、退院後の生活場面で必要な「日常生活訓練」も重視して援助いたします。病棟での生活すべてをリハビリとし、各職種がチームとなって生活のあらゆる場面での自立をめざして援助します。また安心して家庭での生活に復帰していただけるよう、ご家族へのアドバイス、介護指導、家屋環境調整などもご提案します。

途切れのない365日リハビリ

当院では途切れることなくリハビリを行えるよう、365日対応しています。そのことにより少しでも早く回復し、よりよい状態で社会復帰できるよう支援しています。



🌸 平成25年度 患者様 家族様 勉強会 🌸

毎月、患者様・家族様にわかりやすく勉強会を開催しています。参加はご自由です。
勉強会終了後には相談コーナーを設けておりますのでぜひお気軽に声をおかけください。
希望があればご案内を送付致します。

日程	テーマ	発表者	備考
4月20日	地域医療におけるリハビリテーション	事務長	終了しました
5月18日	装具療法について	理学療法士	
6月15日	高次脳機能障害について	作業療法士	
7月20日	えんげ障害について	言語聴覚士	
9月21日	高齢者における水分摂取の重要性	看護師	
10月19日	自宅でできる排泄介助	介護福祉士	
11月16日	介護保険における通所サービス	社会福祉士	
12月21日	高齢者における下部尿路障害への対応	医師	
1月18日	降圧剤について	薬剤師	
2月15日	脂質異常症の食事療法	管理栄養士	
3月15日	生活を整えることの意義	看護介護部長	

❖ 院内・病棟レクリエーション

日々のリハビリ合間の楽しみの1つに、レクリエーションがあります。
各病棟のレクリエーション委員が趣向をこらして催しています。
毎回好評を頂いております。
患者様だけでなく、ご家族様にも楽しんで頂けますのでふるってご参加ください。



内容

4月	春のかざりつけ 	9月	お月見 (おはぎ・どら焼き作り)
	お花見 	10月	ハロウィンかざりつけ
5月	ゲーム・体操	11月	運動会
6月	茶娘 (新茶をいただく)	12月	クリスマスかざりつけ 
7月	七夕のかざりつけ	1月	お正月かざりつけ 
8月	夏祭り 	2月	節分 
	すいかわり	3月	ひなまつり 

薬局からのお知らせ



日々寒さも厳しくなり、インフルエンザ感染症の流行が心配な時期になってきました。
インフルエンザ感染症とは、「インフルエンザウイルス」という感染力の非常に強いウイルスが原因で起こる病気です。発熱・全身倦怠感・筋肉痛などの症状がでます。
重症になると肺炎・脳炎など重い合併症を

ひきおこし、最悪の場合は死に至ることもあります。

症状がでたら早めに受診しましょう。

予防には、手洗い・うがい・栄養のバランスのとれた食事・十分な休息などの他、予防接種が有効ですので、流行前に接種することをお勧めします。

通所リハ 始めました

(介護保険事業)

通所リハビリテーションとは生活期リハビリの一つで、自宅退院後の生活を安定させるための改善策を立案し、それをもとに必要なリハビリを提供するサービスです。当院の通所リハビリテーションは、当院に入院中又は外来通院中の方で引き続きリハビリが必要な方を対象とした1時間以上2時間未満の通所リハビリテーションを行っております。サービス内容は理学療法士・言語聴覚士による40分の個別リハビリと看護師等による集団・自主訓練を行います。リハビリの内容については、医師の指示に基づき担当理学療法士・言語聴覚士が利用者様の活動状況や身体機能の評価を行い、その状態に合わせてリハビリ計画を立案させていただきます。

リハビリテーション室 室長 後藤 健一



リハビリ体操

季節が冬となり、気温が寒いとちょっと動くにもおっくうとなり運動量も減りがちです。年末年始は鍋やおせちなど脂質・糖分・塩分・カロリーも高めなごちそうを食べる機会も増えます。運動不足、高カロリーと体への影響は…。

ここでは自宅で行える簡単な運動を紹介します。普段運動される方は準備体操として、これから運動される方は導入の運動として生活に取り入れていただければと思います。今回は季節が寒く背中が丸くなりやすい時期ですので、椅子で行える背骨の体操を行っていきます。

柔軟性の改善



椅子に浅く腰かける



体を斜めにする
(背筋は伸ばしたまま)



頭から順番に丸める
(股関節の角度はそのまま)



背骨の下から順番に
斜めの位置まで戻す

姿勢の改善



椅子に浅く腰かける
肘を広げ、手を頭に組む



ゆっくり胸を反る
(腰は反らないよう)



ゆっくり元の姿勢に戻る

! 注意

回数：5～8回程度

体調が悪い方、痛みがある方は行わないようにしてください。



□だけ院長の呟き

その1

所謂リハビリというと地味な印象を受ける方が多いと思います。勿論地道にコツコツやる仕事なのですが、我々回復期リハビリテーション病棟は一人の人間の再生、新たな人生の始まりのために、職種を超えたスタッフ間のディスカッション、患者家族様を含めたカンファレンスが常に行われ、患者様もスタッフも常に動いている、活気溢れたところです。

患者様もスタッフも楽しくやりましょう。

復活を目指すべき患者様が我々と同じ気持ちでいらっしやれば良いのですが、急性期の治療が順調にいても、すんなりそのまま家に帰れない方が回復期に来るのですから、そういう方と同じ気持ちになって一緒に歩むというのは正直当院のスタッフにとって大変な仕事です。患者様自身はもっと大変なのだからと思わなければなりません。

回復期リハビリテーションは勿論ですが、医療というものはやればやる程奥が深く、大きく厄介なものだと長い間やってきて感じます。

その中にどっぷり浸かって一身に引き受け、一人で悪戦苦闘すべき代物ではありません。

私自身も一時期挫折した経験があります。

ストレスは発散すべきものでも逃げるものでもなく、まともなぶち当たるべきものですが、医療は患者様のためという一点に絞り込んで、それが仕事と割り切って淡々と日々を送り、一方ではプライベートな時間を有効に使って余暇を大事にするのが正しい医療者の生き方です。

でないと、長年の経験から、人間が壊れるか、へんてこな人間が出来上がってしまうような気がします。それでもいいと仰る方が学者や教授になっているのではないかと思います。それはそれとして、大事なことは、これは医療者に限らず万人に言えることですが、頭を切り替えて仕事以外の何か集中できるものを持つことが心身の健康を保つという意味で最重要事項ではないかと考えます。

そこで趣味の話になるのですが、紙数が尽きましたので、続きはまたの機会に……

院長 樋下田 稔昭

編集後記



第二成田記念病院では、本年度より年4回（季節ごと）季刊誌を発行することになりました。この季刊誌を通じて、当院で行う医療、地域医療における当院の役割などを発信し、当院職員、関連事業者様はもとより、患者様やそのご家族、近隣地域の方々に親しみを持って頂きたいと考えております。

私達職員一同、皆様に医療に関する知識を高め、理解を深めて頂く機会となればと願っております。

今後も皆様のお役に立てる情報を発信して参りますので、この「リハ日和」をお読み頂ければ幸いです。

庶務課 及川 舞

病院基本理念

「人としての尊厳」と「自分らしさ」を根源に、
住み慣れた土地での生き生きとした暮らしへの復帰を支援します。



社会医療法人 明陽会

第二成田記念病院

〒440-0855 豊橋市東小池町62-1 TEL.(0532)51-5666
http://www.meiyokai.or.jp/narita2/ FAX.(0532)55-0660